

モホイ＝ナジ・ラースロー略年譜

- 1895年 | 7月20日、ハンガリー南部のバーチ・ボドログ県の小村バーチボルショードに生まれる
- 1905年/10歳 | ハンガリー第二の都市セグドに引越し、ギムナジウム（ヨーロッパの中等教育機関）に入学
- 1911年/16歳 | 自作の詩が、地元の新聞『セグド日報』に掲載される
- 1913年/18歳 | ブダペストのエトヴェシュ・ロラード大学法学部に入学
- 1915年/20歳 | 第一次世界大戦の勃発に伴い、ドイツ・オーストリア同盟国軍に入隊
配給された葉書に、鉛筆やインクで戦地の様子をスケッチする
- 1918年/23歳 | 兵役を終えてブダペストに戻り、芸術家への道を歩むことを決意
市内の美術学校の夜間クラスに通い、裸体デッサンを学ぶ
- 1919年/24歳 | ハンガリーの前衛芸術運動を先導したアーティスト集団「MA」の一員となる
革命後に樹立した社会主義政権が崩壊し、反革命勢力が強まったため、ウィーンに亡命
- 1920年/25歳 | ベルリンへ移り、幾何学的形態を構成した抽象絵画を手がけるようになる
写真家ルツィア・シュルツと出会い（翌年結婚、1929年離婚）、カメラの撮影技術を教わる
クルト・シュヴィッターズ、ハンナ・ヘッヒら、ダダの作家たちと知り合う
- 1922年/27歳 | 妻とのフランス旅行をきっかけに〈フォトグラム〉の実験を開始
《ライト・スペース・モデュレータ（電気舞台のための光の小道具）》の設計図を作り始める
- 1923年/28歳 | 建築家ヴァルター・グロピウスの招聘で、ワイマールの総合芸術学校「バウハウス」のマイスターとなり、予備課程の授業と金属工場の指導を担当する
- 1924年/29歳 | 油彩の支持体に、プラスチック、アルミニウム、セルロイド板などを用いるようになる
写真のコラージュやモンタージュを制作、〈フォトプラスチック〉と名づける
- 1925年/30歳 | 保守派の抑圧が強まってバウハウスの移転を余儀なくされ、デッサウへ移る
『バウハウス叢書』の装幀を手がけ、『バウハウスの舞台』『絵画・写真・映画』を著す
- 1928年/33歳 | グロピウスらとともにバウハウスを辞し、ベルリンでデザイン事務所を開設
タイポグラフィや展覧会の展示設計、オペラの舞台美術などの仕事に携わる
- 1929年/34歳 | ファッション雑誌『ディー・ノイエ・リーニエ』の表紙デザインを手がける
短編映画『マルセイユの港町（ヴュー・ポール）』や、舞台のための映像作品を撮る
バウハウスの教育方針をまとめた『材料から建築へ』が刊行される
- 1930年/35歳 | 建築家シェベック・シュテファンの協力を得て完成した、動く彫刻《ライト・スペース・モデュレータ（電気舞台のための光の小道具）》が、パリで行われた「第20回フランス装飾美術家協会展」に初出品される
同作の動きをとらえた映画『光の戯れ 黒・白・灰』を製作
- 1933年/38歳 | シビル・ピーチュと再婚、長女ハトゥラが生まれる
ギリシャで開催された「第4回近代建築国際会議」に参加し、記録映画を撮影する

- 1934年/39歳 | ナチス政権の弾圧が強まったため、アムステルダムへ移る
ロンドンのコダック社で製版を学んだ後、カラー写真を商業デザインに用いるようになる
- 1935年/40歳 | ロンドンに移住
デザイン事務所を開き、紳士服店の内装やディスプレイを手がけるほか、航空会社やロンドン交通局の広告宣伝物をデザインする
透明なプラスチック板に絵を描き、白い背景にその影を落とす〈スペース・モデュレータ〉を制作
- 1937年/42歳 | グロピウスの推薦により、「ニュー・バウハウス アメリカン・スクール・オブ・デザイン」の校長に着任するため、シカゴに移る
新製品のコダクロームとライカ製カメラを用い、カラー写真に意欲的に取り組む
- 1938年/43歳 | 資金難でニュー・バウハウスが閉校、再建のために商業デザインの仕事に就く
著書『材料から建築へ』が『ザ・ニュー・ヴィジョン』と名を変え、アメリカで出版される
ニューヨーク近代美術館の「バウハウス 1918-1928」展に作品が出品される
- 1939年/44歳 | 新しい「スクール・オブ・デザイン」をシカゴに設立する
透明なプラスチックと金属を組み合わせた彫刻を手がける
- 1941年/46歳 | ニューヨークの非対象絵画美術館（後のグッゲンハイム美術館）で個展
- 1943年/48歳 | 自身の芸術理念や教育哲学をまとめた『ヴィジョン・イン・モーション』を執筆し始める
- 1944年/49歳 | スクール・オブ・デザインの運営から手を引き、学校名を「インスティテュート・オブ・デザイン」に変更する（同校は1949年にイリノイ工科大学の一部となり、今日に至る）
- 1945年/50歳 | 白血病と診断される
広島への原爆投下に心を痛め、地球をモチーフにした〈核兵器〉の連作に着手する
- 1946年/51歳 | シンシナティ美術館で回顧展が開催される
油彩、写真、水彩、彫刻などを多数手がけるとともに、会議やセミナーに積極的に参加する
アメリカ国籍を取得
11月24日、シカゴの病院で逝去

